

先生のための「夏休み経済教室」

経済教育に 経済学はいらない？

駒澤大学経済学部准教授

財務省財務総合政策研究所客員上席研究員

株式会社シノドス

飯田泰之

後期中等教育のジレンマ

- 後期中等教育の位置づけ問題
 - 市民的教養vs生きる力
- その教育のスタンス
 - 基礎教育の仕上げ・社会人への入り口として
 - 受験知識または大学での学習準備
- 後期中等教育で何を伝えるか
 - 大学進学するのだから大学で学ぶ内容の入門編であるべきだ／であってはならない
 - 大学に進学しないのだから……

経済教育に経済学はいらない

- 教義の経済生活に必要な知識は
 - 経済用語・経済情勢・経済制度の知識
- 大学進学に必要な知識
- 経済学は
 - 自由な取引の社会的効率性の証明
 - 自由主義経済の欠陥を補完する経済政策
 - 望ましい経済システムの探求
- ∴ それぞれの一致点は少ない
 - 経済学者の大半は経済生活に成功していない？

高等学校指導要領

-政治， 経済， 国際関係などについて客観的に理解させるとともに， それらに関する諸課題について主体的に考察させ， 公正な判断力を養い， 良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。（第3節第1款第3）
- 現代の社会について主体的に考察させ， 理解を深めさせ.....民主的， 平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。（第3節第1款）

- **現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済の国際化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の機能について理解させるとともに、その特質を探究させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。
(第3節第1款第3(2)現代の経済)**

後期中等教育における経済学

■ 高等学校指導要領は

- 政策等の是非を理解するための素養としての経済教育の必要性

→ 市民的教養としての経済(学)を重視

→ 標準的な経済学の内容そのものを教える意義有

しかし！

- 後期中等教育特有の「中途半端」さはぬぐえない
- 限られた時間で経済学のさわりを教えることに意味はあるのか？

経済学教育の意義再考

■ それでも若者は経済学を学ぶべきだ！

→ 学ぶべきものは？

- 需供均衡分析よりも
- 乗数効果や金融政策の制度よりも
- アダム＝スミス，ケインズの業績よりも

→ 「経済学の思考法」にある

- 現行の教科書では経済モデルのさわりは記されているが，最も重要な「経済学的思考法」への言及はない……

経済学の思考法

- 経済学は希少な対象を取り扱う
 - 経済主体の欲しいものは希少
 - 制約の下で最適化行動を行う
- 主体はインセンティブに基づき合理的に行動
 - 自身以外の主体も主観的には合理的
- データに基づいて思考する
 - データに基づいて機能的な仮説を設定
 - データにしたがって動的に理論を変化させる

経済学と希少性

- 希少な対象だから論理的に考える
 - 経済学の対象になるものとならないもの
＝悩むべき問題とそうでない問題の区別
- 希少な対象を考える
 - 解くべきは「制約つき最適化問題」
 - すべての問題を0から考えることは出来ない
 - 制約(自分では動かさないもの)を所与として
 - 戦略変数(自分で選択できるもの)から最適な選択を行う思考様式を学ぶ

希少性からノーフリーランチへ

- 欲しいものはたいてい希少
= 入手には対価が必要
← トレードオフ / ノーフリーランチ
- 費用概念の整理
 - 金銭的費用
 - 心理的費用：金銭だけが費用ではない
 - 機会費用：ある選択により失われるもの < 比較優位説の本質的理解 >
 - 時間費用：現在と将来どちらを重視するか

合理性の仮定

- **経済学の想定する合理性とは**
 - 金銭的な損得に限定されるものではない
 - 個人的な利害に限定されるものではない
 - 「他人に幸せであって欲しい」という利己心
- **主観価値と客観価値**
 - **経済学の基本は主観価値**
 - 自分には理解できなくともある人には大切なものがあることを知る
 - 実はビジネスチャンスでもある

合理性の仮定は謙虚さを意味する

- Win-Winの取引しか成立しない
 - ＝自分とかけ離れた価値観の相手こそもっとも得な交換の相手になり得る
- 合理的期待仮説
 - ×経済主体が全知全能である
 - ＝他人は少なくとも自分と同程度には様々な情報を理解して行動している
 - ←政府に関する合理的期待が変えた政策の基本

データによる思考

- 科学的思考法としての仮説演繹法
 - データから帰納的に仮説を立て、論理的に思考し、結論をデータで検証する
 - 経済学は愚直に仮説演繹法を試みてきた
- 社会科学の対象は動的
 - 自然科学とは異なり「真実」が変化する
 - 常にデータ・現実による挑戦をうけて理論を修正する必要がある
 - = 社会科学における「理論とは何か」への理解

宣伝



- 物価決定の基礎理論は経済制度・システムに応じて変化してきた
- 素朴な貨幣数量説から期待を重視する動学的理解へと進化する貨幣理論はいかなる歴史的経験から生まれたのか

経済学と経営学

- 経営学は1980以降急速に経済学化
 - 経営戦略論における産業組織論の援用
 - 実証分析における数理統計の活用
- 経済学と経営学の違いとは
 - = 目標の違い
 - 経済学：全主体の便益の和／パレート効率性
 - 経営学：当該企業の目的最大化
 - ∴ 経済学の思考法は経済系学部への入門としても有効である